

第2回 吉野川流域治水協議会（下流） 議事概要

1. 日時：令和2年9月30日(水) 13:10～13:50

2. 場所：Web会議

3. 協議会構成員

徳島市 市長 内藤 佐和子（代理：土木部長 石川 稔彦）
鳴門市 市長 泉 みちひこ（代理：危機管理課長 森岡 正則）
吉野川市 市長 原井 敬（代理：建設部長 藤原 弘文）
阿波市 市長 藤井 正助（代理：建設部長 川野 一郎）
石井町 町長 小林 智仁
松茂町 町長 吉田 直人（代理：副町長 森 一美）
北島町 町長 古川 保博（代理：副町長 藤本 宏）
藍住町 町長 高橋 英夫（代理：建設産業課長 高木 律生）
板野町 町長 玉井 孝治
上板町 町長 松田 卓男
徳島県 県土整備部長 貫名 功二（代理：次長 榎本 茂樹）
徳島県 東部県土整備局長 久米 正浩
四国地方整備局 徳島河川国道事務所長 新宅 幸夫

4. 配付資料

議事次第

（資料1） 吉野川水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ（案）】

（資料2） 今後の進め方（案）

（参考資料） 吉野川流域治水協議会 規約

5. 議事概要

- ・「吉野川流域治水プロジェクト」の策定に向けて、中間とりまとめ（案）及び流域治水プロジェクト策定に向けた今後の進め方（案）を説明し、了承を得た。
- ・吉野川下流域の10市町における流域対策の検討状況や、参考となる事例について情報交換を図った。

《各市町における流域対策の検討状況等》

1) 徳島市

- ・都市部の浸水対策としてポンプ場や水路を整備する都市下水道事業を実施中。
- ・公共下水道事業についても、雨水計画を見直し、効果的・効率的に整備を進める予定。
- ・また、本市の取り組みとして、「徳島市流域治水検討会議」を設置、プロジェクトの推進及び、施策等に関することを協議し、流域治水の推進を図る。

2) 鳴門市

- ・公共下水道（雨水）の整備を推進中。
- ・整備後50年が経過しており年次的に長寿命化を実施、併せて耐震化も実施中。

3) 吉野川市

- ・本市を流れる飯尾川は台風、大雨の度に内水氾濫が発生している状況。
- ・ほたる川の事例を参考に、浸水被害軽減に向けた、ソフト、ハード両面からなる総合的施策を現在検討中。
- ・飯尾川についても、ほたる川同様、国、県、関係市町村が連携して取り組みを進め、内水対策を進めたいと考えている。関係機関の協力をお願いしたい。

4) 阿波市

- ・応急対策の活動拠点である交流防災拠点施設の新設に伴い、建設後の流域における水害リスクを軽減させる治水対策として、敷地内に4箇所の調整池を設置。
- ・調整池の一つは、イベント等多目的に利用できる野外ステージ、円形広場として活用している。
- ・緊急浚渫推進事業により、本市管理の準用河川、普通河川の堆積土砂の撤去を実施中。

5) 石井町

- ・従来の防災無線が聞こえづらいとの指摘を受け、住民の9割が加入しているケーブルテレビを活用した、石井町行政専用チャンネル「地域情報チャンネル」の整備を予定。
- ・ライブ映像のみならず、避難情報、災害情報も発信予定。
- ・住民には堤防はあるから安心ではなく、逃げる時間を作っていると広報してきた。
- ・どこまで水がたまっているか視覚的に確認できれば自発的な避難につながる。
- ・住民と協力して逃げ遅れゼロの取り組みを進めていきたい。
- ・吉野川には国土交通省のカメラもあるので、それも含めて情報提供できるようにしたい。

6) 松茂町

- ・近年の宅地開発により、遊水地帯である農地が減少、内水氾濫の危険性が高まっている。
- ・これらの対策として、台風接近が予測されれば、農業用水の取水樋門を閉じ、干潮時の自然排水に加え、ポンプによる強制排水を行い、事前に水路内水位を下げることで、遊水池の役割を確保している。

7) 北島町

- ・本年度ポンプ場を整備、町内5箇所、18基のポンプで治水対策に取り組んでいる。
- ・他所では整備したポンプ場が、想定外の豪雨等により浸水し、機能が発揮できなかったと聞く。
- ・内水氾濫の対策として、来年度排水機場の耐水化計画を策定予定、より一層の治水対策に取り組んでいく。

8) 藍住町

- ・農地の宅地造成に伴い、以前と比べ早い段階で町内の河川水位が上昇する懸念有り。
- ・町内の河川水位が上昇すると、自然流下による排水が困難なため、排水路から町内河川への強制排水が有効な手段と判断しており、今後も検討を進める予定。
- ・排水機場の設備更新時には、排水能力の増強をご検討頂きたい。
- ・雨水貯留施設の整備についても実施の如何を含めた上で、引き続き進め方の検討を行う。

9) 板野町

- ・調整池の整備にあたり、国の財政支援を検討したが、利用できるメニューがなかった。
- ・全国的に激甚災害が増加しており、流域治水は住民の生命財産を守る最重要課題である。
- ・流域市町村が流域治水に広く活用できる国の財政的な支援制度を増やして頂きたい。

10) 上板町

- ・上板町では六条地区で漏水の発生が多く、調査を実施して頂いている。
- ・河川管理者と危険箇所の情報共有を図るためにも、重要水防箇所の合同巡視の実施をお願いしたい。

《各市町の取り組みに対する意見》

1) 徳島河川国道事務所

- ・都市下水路及び公共下水道（雨水）の整備は内水対策として重要。
- ・徳島市の各部署の連携を目的とした検討会議の設立は良い取り組み。国土交通省も、横の連携を密にして様々な取り組みに繋げて行きたい。
- ・下水道の耐水化も氾濫時の治水機能確保として重要。引き続きお願いしたい。
- ・農業用水路の遊水池化、貯留施設の設置といった、流出抑制対策を行うことで、各地域の安全度が高まる。こういった取り組みへの財政的な支援が必要との意見はもっともであり、上に伝えていきたい。
- ・合同巡視の要望については来期に向けて取り組んでいきたい。
- ・ケーブルテレビによる視覚に訴える取り組みはわかりやすく、住民の方にも受け入れられやすい。国のカメラ映像提供についても協力していきたい。
- ・堤防が整備されても、それを上回る出水は必ず発生するという意識を持って取り組みを進めて頂きたい。
- ・流域治水はこれまで、河川区域内だけで、治水対策をしていたところを一步踏み出して、流域の地域の方々の力を借りて、できるだけ被害を抑えようという取り組み。町づくり、農水の関係との取り組みも期待しているところ。これから市町と一緒に取り組んでいきたいので協力をおねがしたい。

以上